

保育實習の指導

保育實習指導は高等女學校保育實習の場合には素より、隣組保育といつたやうな問題に對しても、今日の急務になつてゐる。師範學校の場合には専門的であるが、その他は決戦下の必要として

一般に要求せられる。又現に要求せられ實行せられてゐる。その實習指導の用意について此の號を特輯した。おのづから保母諸君の實際保育の上にもお役に立つと思ひつゝ。(編輯子)

保育實習指導概要

倉橋惣三

實習指導の要諦

指導の對象は高等女學校の生徒、すなはち、保育の未経験者であり、又その目的も必ずしも保育専門家になることを志ざしてゐるものでもない。といふと如何にも指導甲斐が少ないやうであるが、國の幼兒を大切にすることの意味はよく分り、子どもといふものへの情愛も、人間常識も一通り發

達してゐる年頃である。保育指導の手が、りは充分具つてゐるといつてよい。そこで、保育指導の大もととして、先づ、國の幼兒の大切さといふことを、しっかり理解させることが必要であるが、それを觀念的に明確にするのは豫備講話ですることとし、實は、保育の實際の中で、その信念が實踐的に強化せられなければならないので、たと觀念として終つてはならないので

ある。現に實際に大切にしていることで、それが信念化せられなければならない。自ら大切にする任にあたらないうで大切だくと論ずるだけではなんの眞實もない。

保育指導の大もとの第二は、幼兒の保育法の要諦を把握させることであるが、これも普遍的な保育理論から導いたり、餘り細かい保育技術を初めから授けたりするよりは、生徒自身が教養ある青年女性として持つてゐる幼兒への情愛と常識とを、素直に、殊にみづ／＼しく發揮させることから出發したい。理論や方法の普遍規格のみを氣にして、どうすべきか、どうしなければならぬのかといつた風な思案ばかりさせて、折角の情愛と常識とを抑へさせたり閉ざさせたりしてはならない。殊に、そんな形式的指導に過ぎて、情愛のあたゝかさもなく、常識のなま／＼しさもない、「冷いから誤らない」といつた辭をつけては大變悪いことである。その意味で、眞の指導は、幼兒の前に女生徒を一げいに生きて動かすのでなくてはならない。従つてまた、技術として下手でも、方法として多少間違ひをしても、ほんとうにその子への情愛と自分の常識が

ら出る保育をその眞實と親切とを高く認めてやるべきである。

實習指導の内容の一

一日の保育は、なんといつても子どもその日の健康の見診から出發する。朝次々に迎へる幼兒を一目見て、その健康の状態に氣がつかなくてはならない。全體の健康は勿論、目や鼻や耳の部分々々まで、精確な診断はあとで丁寧に行たり、専門家を俟つとして、兎に角く異常がないかといふことには、直觀的に氣がつくやうに慣らされなければならぬ。集團保育の中でも一人一人に就て見落しなくそれが出来るやうにならなくてはならない。

健康ばかりではない。頭髮、手足、衣服のはし／＼に、すらつと氣が配られ目が届かなくてはならない。こゝにいふことは、慣れることによつてよく出来るが、その根本となるものは、親切の有無深淺に基く。しんみのじつがなくては、保育は出来ない。指導して、日に／＼子どもへのじつ、の出来るようにしたい。しんみに世話の出来るやうにしたい。

實習指導の内容の二

保育は、こつちからしてやることでもあるが、實は、相手を受けることであることが多い。その受け方こそ、最も大切な指導の内容である。

話しかけ方も大切だが、子どもの方から話しの受け方こそ、もつと大切である。「い、お返事」といふことは、子どもに訓練する必要があると共に、子どもに對して、先生たる女生徒に訓練する必要がある。

相手を受けることが、よい返事のし方ばかりで終らないのは勿論である。ほんとうに幼兒の心の受け方は、絶えずこまやかな指導を要する。そのために必要な一つは、幼兒とよく話の出来ることである。こちらからのお話のし方の外に、たゞなんでもなく、幼兒とする朝の出會ひ話から、廊下の立話、運動場の話あひ、みんな、大切なものである。話をして聞かせることばかり好んで、話を聞き、話をしあふことを好まないやうな、小ぢんまりした先生保姆をつくつてはならない。

實習指導の内容の三

話しあひと共に、或はそれ以上一層大切な内容、少なくとも一層多い内容は、幼兒といつしよに遊べる者にするものである。これなしに保育者であり得ない。

幼兒の遊ばせ方といふ言葉がある。又その技術秘法がありそうにもいはれる。しかも、遊ばせるよりもむつかしいこと、且先づさきになければならぬことは、幼兒と共に遊べることである。眞に遊べるのである。この點若い高女生は極めて好適者である筈である。先生の稽古をさせる前に、よき姉友として幼兒といつしよに樂しみ遊び得ることを伸ばしてやらなくてはならぬ。たゞ、このお姉ちゃんが多く、短い間、殊に自分の氣の向く短い間だけはよく遊ぶが、それが長つゞきしないこと、多くはむら氣であるので困る。指導の必要はこゝにある。

實習指導の内容の四

かうして話をしあひ、いつしよに遊ぶこと、既に大きな保育であるが、苟も保育

たる以上、個々の幼児をよく知り、その個性に基いて躱げの方針を立て、ゆかなくてはならない。つまりは、幼児ひとりひとりの性質の知り方と、それに對する態度處置の定め方との指導が必要である。これは必ずしも心理學的といふ程のことではなく、決して一々心性査定を方法的に行ふといふことではない。それ／＼それとして必要もあり、またその方法も學ぶがよいとして、實際の保育——殊に話あひと遊び相手との間において、おのづからそれが出來てゆくように指導したいのである。

大きな躱げに就ては、その要點も要領も、保育上素より極めて大切である。しかし短期の保育實習では、躱の結果を擧げるといふよりも、個々の幼児に就て、何を躱げ、どう躱げることが必要な、懇に氣がつき得ることが大切である。指導もこゝを目標したい。

實習指導の内容の五

個の凝視、個の躱げの工夫の他に、集團を集團として把握し保育することの指導は、高等女學校保育實習指導の一つの必須

の内容である。この新課程の目的の少くも一つがこの點にあるからである。一旦の非常時、幾人かの幼児の集團を、一人をも見失ふことなく、一人にも自分(保姆)を見失はさせることなく、しつかりと、しかもやんわりと、手中に置くことを得させなければならぬのである。しかもこれが高女生にとつて、最も容易でない。といつて、つづげさまに整列させたり、一と束にして置いたりすることは出來ないし、してもならない。幼児群らしい形はとらせて、しかし散逸散亂させないことが必要である。

心の目が、ちやんと一人々々の有り場を追つてゐなくてはならない。つい一人二人を置き忘れ——場から又心から——たゞ、羊の群を指導する犬にも劣るといふことになる。

たゞ、この指導はなか／＼むつかしい。經驗を積ませるよりし方がない。まあ女生徒銘々に幾人かづゝの幼児を分擔させて、責任を以て引受けさせることである。綜合實習では、時間的に保育の繼續を經驗させると共に、場所的に保育の行き届きを經驗させる意味をもつ。即ち、個々に手が行き届き、集團に氣が配られ届くことに外ならない。その熟練の完きを得るは難いとして、その方向に指導することこそ、保育實習指導の全面的一大眼目といつてよからう。

子供の健康の見分け方

醫學博士 内藤壽七郎

健康と云う言葉は甚だ解り易いやうでも、又反面却々理解し難いことである。即ち健

康と云うものに對する定義が醫學上明確を缺いてゐるからである。山本康裕博士は「健